# スマートシティアプリケーションが、旅客情報ディスプレイシステムを最適な状態に維持

## 乗客のスムーズな移動を可能にする Allxon エッジ アーキテクチャ

急成長するテクノロジーへの依存度が高まる世界では、最新かつリアルタイムの交通情報が求められます。スマートシティテクノロジーを交通システムに適用することが重要なのはなぜでしょうか？また、それが交通手段の選択にどのように影響するのでしょうか？

### リアルタイムな旅客情報ディスプレイ

鉄道業界が旅客情報システム(PIS)を採用したことで、利用客の体験は向上しました。自動車両ロケーター(AVL)テクノロジーにより、乗客は列車の到着を予測し、より適切な選択を下すことができるようになりました。北ヨーロッパでは、国営の鉄道会社が駅のプラットホームでPISを採用しています。到着する電車に関する、最新のスケジュール情報がディスプレイ表示されるため、乗客は出発時刻を予測することができます。

旅行者に最新のスケジュール情報を提供するために、鉄道管制センターは、ローカルエリアネットワーク(LAN)でリアルタイム到着予測システムに接続され、PISを備える中央管理システム(CMS)で構成されています。自動車両ロケーターとインシデントキャプチャテクノロジーが、CMSにライブアップデートを生成します。収集されたデータは同期され、列車から鉄道管制センター、そして各駅のプラットホームに設置された旅客情報ディスプレイに配信されます。

## PIS の障害が原因で利用客が減少

新たなモバイルナビゲーションアプリケーションの急激な進歩により、不正確で同期されていないスケジュール情報は、利用客にとって受け入れがたいものとなっています。プラットホームにいる乗客にとって、リアルタイムに更新され、かつ同期されたPISがもはや当然のものとなっています。PIS の性能が、旅行者が移動手段を選択する際に、鉄道を信頼するかどうかの決断に影響を与えます。 北ヨーロッパは厳しい気象条件にさらされ、屋野の鉄道プラットホームに設置されたデジタルディスプレイは、技術的な障害やシステムエラーが珍しくありません。システムのダウンタイムを最小限に抑え、乗客が最新の交通情報を確実に受け取れるよう、PIS は高速で動力サイクル アクションを実行できるスマートテクノロジーを必要とします。しかし、既存の鉄道CMSデバイスは、デジタルディスプレイを個々の駅で効率的に再起動できる手段を持ちません。既存の動力サイクルサービスは、ディスプレイが設置された場所で実施する必要があり、時間と労動力の面で鉄道会社に高いコスト負担を強いています。リモートデバイス管理ツールを組み込むことも、コストがかかる上、既存のCMSデバイスに複雑な再構築が必要となり、テストや検証 、実装に、最長で10～12か月を要する場合があります。

## Allxon エッジ アーキテクチャ 最良の顧客体験を提供する Allxon エッジ アーキテクチャ

Allxon はリモートによるデバイス管理を専門としており、ある北ヨーロッパの国営鉄道会社においてすべての駅で共通した旅客情報を表示できるようサポートしています。動力サイクル向け Allxon swiftDRは、Allxon エッジ アーキテクチャを採用することで安全かつ効果的な帯域外(OOB)電力制御ツールを提供し、鉄道管制センターがクリック一つのリモート操作で、エッジディスプレイの電源のオン・オフを切り替えられるようにします。 Allxon エッジ アーキテクチャ は、鉄道管制センターのLANで機能するAllxon の plugIN™ API を備え、動力サイクル向け Allxon swiftDR を、既存の CMS デバイスに容易かつ安全に組み込むことを可能とします。

Allxonは、複雑な CMS デバイスの再構成や再構築を必要としません。Allxonは SDK を提供しており、システム開発者は、エッジデバイスへのプライベート接続を、サーバー上で安全にセットアップすることができます 。Allxon が提供する、統合可能な plugIN™ API ソリューションと Allxon swiftDR Enabler により、PIS ビジュアルディスプレイのシャットダウンを、鉄道管制センターで簡単に操作することができます。Allxon エッジ アーキテクチャを備えるCMS により、社内および政府の規制に基づいてローカルネットワークアクセスを制限しながら、デバイスをリモート操作することが可能となります。北ヨーロッパの国営鉄道会社は、Allxon swiftDR Enabler が CMS に組み込まれた NEXCOM (NISE 51)などのスマートシティ アプリケーションテクノロジーを採用する

© Allxon 2020. 無断複写・転載を禁じます。

ことで、各駅の **PIS**ビジュアルディスプレイを効率化しています。**Allxon** のリモートエッジアーキテクチャは、鉄道会社にとってアクセスが最も困難で、かつ天候の影響を受けやすい **PIS** ビジュアルディスプレイを最適化し、乗客がスムー ズかつ快適に移動できるよう、最新の情報を確実に届ける上で役立ちます。●

## 推奨システム：

•**NISE 51** (P/N:10J00005100X0)

▸ 詳細はこちら

© Allxon 2020. 無断複写・転載を禁じます。